

金融機関の融資動向等に関するアンケート調査結果の概要

金融庁においては、これまで中小企業金融の円滑化に向けた取組みの一環として、中小企業から見た中小企業金融の実情についての確に把握するため、「中小企業金融モニタリング」を実施するとともに、中小・地域金融機関の利用者利便向上を促す観点より、「中小・地域金融機関に対する利用者等の評価に関するアンケート調査」を実施してきた。

平成 19 年 4 月 5 日に公表された金融審議会金融分科会第二部会報告書「地域密着型金融の取組みについての評価と今後の対応について」において、「現行の利用者アンケートや中小企業金融モニタリングの内容を見直し、効果的・効率的な実態把握が必要」と提言されたことを受け、所要の見直しを行い、平成 20 年 2 月から 4 月にかけて、全国の財務局においてアンケートを実施した。

アンケート項目のうち、融資動向等に関する部分についての概要は以下のとおり。

I. 調査実施方法

全国の財務局において、各地域の商工会議所の経営指導員（中小企業診断士等）など 447 名を対象に、下記の項目について、財務局職員による聴き取り調査を実施した。

設問 1 中小企業に対する融資姿勢の実情について

- (1) 中小企業への融資姿勢に対する評価（全体）
- (2) 中小企業への融資姿勢に対する評価（地域別）
- (3) 中小企業への融資姿勢に対する評価（業態別）
- (4) 「積極的である」、「やや積極的である」を選択した主な理由とその背景及び具体例（業態別）
- (5) 「消極的である」、「やや消極的である」を選択した主な理由とその背景及び具体例（業態別）

設問 2 その他、中小企業金融の実情等についての意見

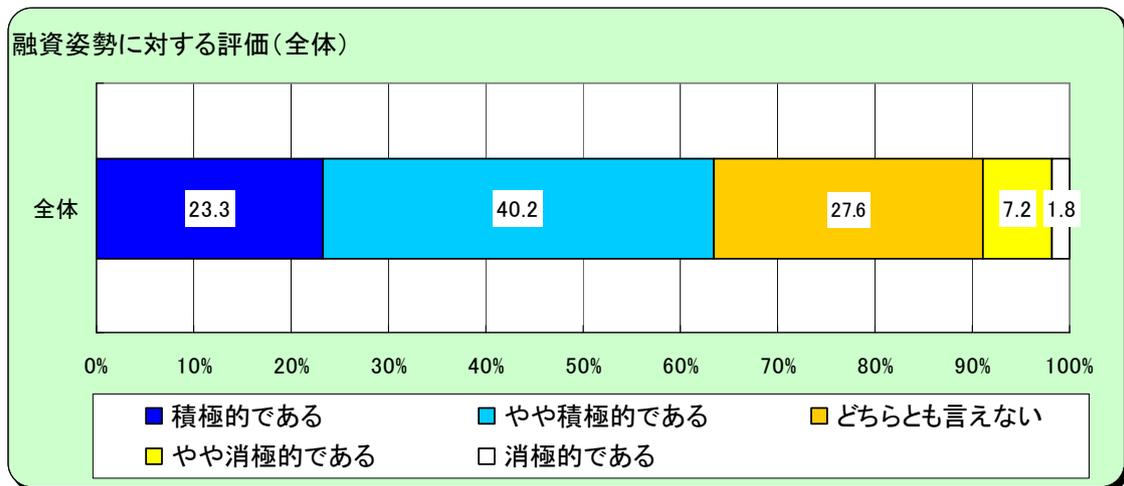
設問 3 金融検査マニュアル別冊〔中小企業融資編〕の認知状況について

Ⅱ. 調査結果の概要

設問 1 金融機関の中小企業に対する融資姿勢の実情について

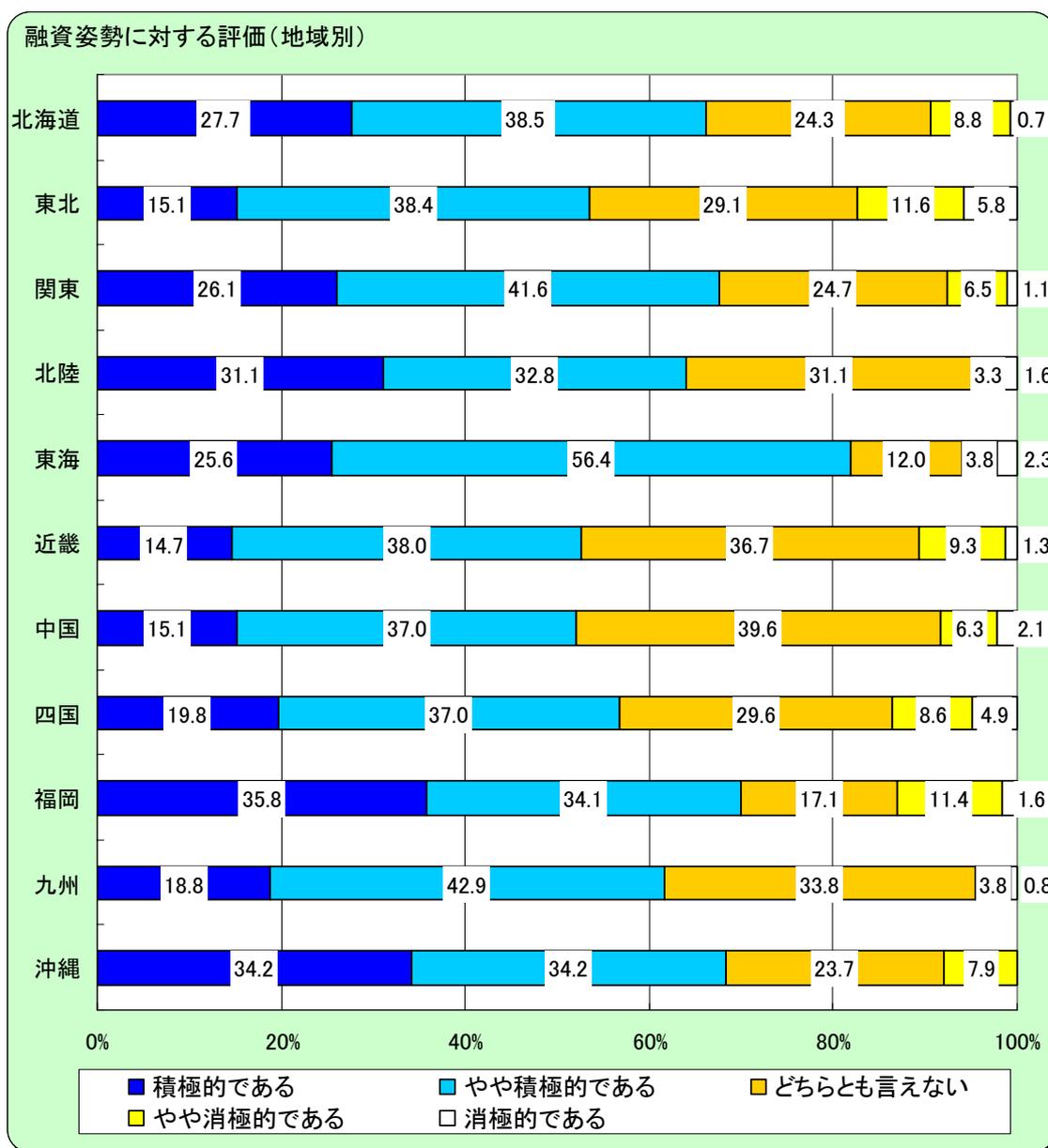
(1) 中小企業への融資姿勢に対する評価 (全体)

※ 経営指導員等から得られた総回答数 1,788 のうち、「わからない」とした無効回答数 275 を除く有効回答数 1,513 の結果。以下 (2)、(3) に同じ。



- 金融機関の融資姿勢に対する積極的評価(「積極的である」及び「やや積極的である」の合計。以下「積極的評価」という。)は63.5%であり、半数を上回っている。
- 金融機関の融資姿勢に対する消極的評価(「消極的である」及び「やや消極的である」の合計。以下「消極的評価」という。)は9.0%であり、1割を下回っている。

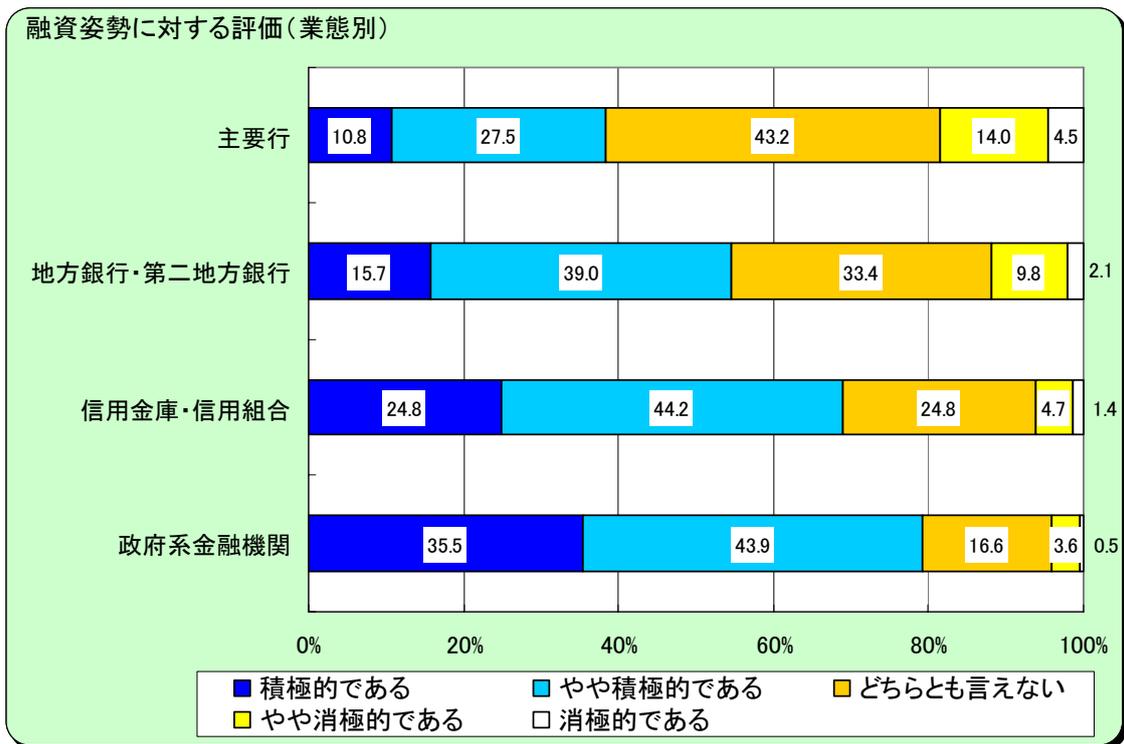
(2) 中小企業への融資姿勢に対する評価 (地域別)



○ 積極的評価は、地域ごとにばらつきは見られるものの、全地域において半数を上回っており、最も高い地域は東海の 82.0%、次いで福岡の 69.9%、沖縄の 68.4%、最も低い地域は中国の 52.1%となっている。

○ 消極的評価は、全地域において 20%を下回っており、最も低い地域は九州の 4.6%、次いで北陸の 4.9%、東海の 6.1%、最も高い地域は東北の 17.4%となっている。

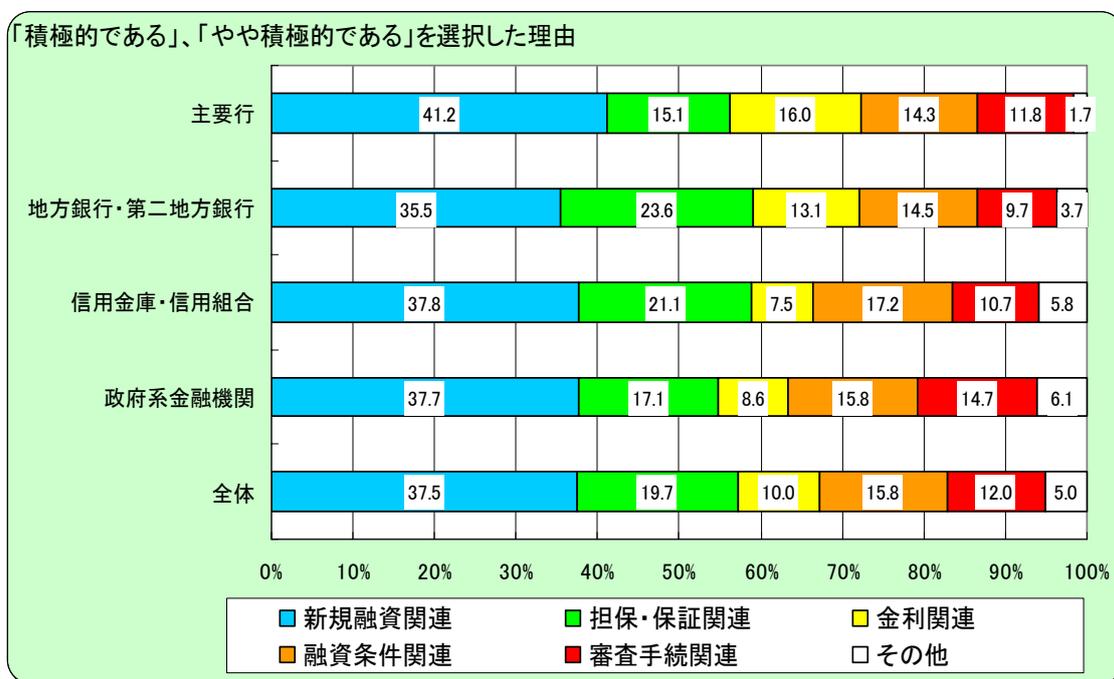
(3) 中小企業への融資姿勢に対する評価（業態別）



- 積極的評価は、「地方銀行・第二地方銀行」が54.7%、「信用金庫・信用組合」が69.0%、「政府系金融機関」が79.4%と半数を上回っている。
- 消極的評価は、全業態において20%を下回っている。

(4)「積極的である」、「やや積極的である」を選択した主な理由とその背景及び具体例(業態別)

※ 経営指導員等から得られた回答数 1,409 (複数選択可) の結果。



- 積極的評価の理由としては、各業態とも「新規融資関連」が最も多く、業態全体では 37.5% となっている。次いで「担保・保証関連」の 19.7%、「融資条件関連」の 15.8% となっている。

積極的評価に対する主な背景・具体例については次のとおり。

【主要行】

- 以前ほどではないものの、依然として新規融資には積極姿勢が見られる。
- 新規先を開拓する意識があり、小規模な企業にまでDM等による案内をしている。
- 担保・保証ばかりに依存せず、事業計画・ビジネスモデルを評価して融資する姿勢が伺われる。
- 地銀との競争の中で優良顧客の開拓には熱心である。
- 優良先など対象先を絞って、スコアリングモデル商品を中心とした新規融資の獲得に力を入れている。
- 中小・小口向け融資については、比較的積極的にアプローチしている。

【地方銀行・第二地方銀行】

- 限られたパイの中、融資案件確保のため積極的な姿勢が見られる。
- 動産担保融資の取扱いや創業塾の開催など、様々な角度から全般的に地域密着型金

融が浸透してきていると感じる。

- 低金利の主要行と訪問頻度の多い信金との狭間で厳しい融資環境にある模様で、それを打開すべく積極的な新規開拓セールスが見受けられる。
- 優良取引先には簡単な審査で低金利の融資を行い、業績の悪い先には高めの金利設定で融資につなげるなど積極的な姿勢が見られる。
- 企業の定性面も考慮し、財務状況等の数値が決して良くない中小企業についても相談に応じ、貸出条件変更等に前向きである。

【信用金庫・信用組合】

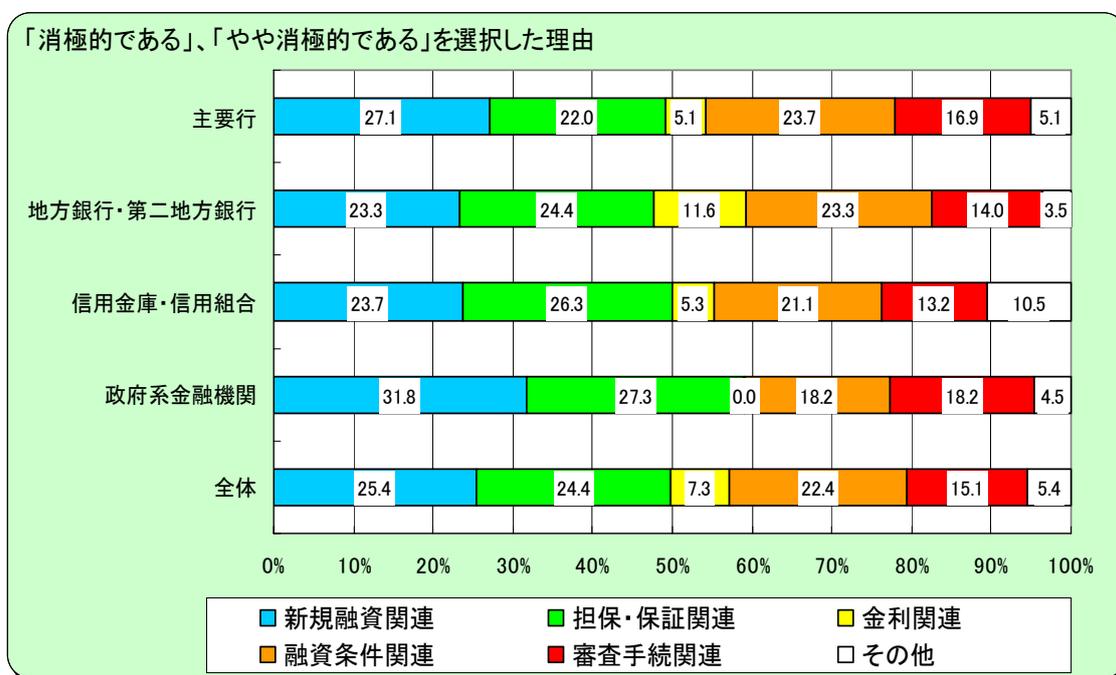
- 機動性が高く、地域性を前面に出したきめ細やかなサービスが非常に良いと感じる。
- リレバンの使命を果たすべく、積極的な姿勢。他行からの借換、新規融資に応じ、中小企業の資金繰りの安定を図っている。
- 主要行や地方銀行による中小零細企業に対する積極的な勧誘が影響し、信用金庫はより積極的に新規開拓を行っている。
- 地域に根付いた活動が出来ており、他の金融機関が相手にしない先でも地元の金融機関として面倒を見るという気概を持ち、頼もしい存在である。
- 原油高による原材料価格の高騰の影響を受けた企業を中心に、積極的な融資姿勢が伺える。

【政府系金融機関】

- 民間金融機関では融資が難しい中小零細企業や、融資を敬遠しがちな飲食業、不動産業に対しても融資しているなど積極的な姿勢となっている。
- 毎月、地元商工会議所において中小企業者向けの相談会を開催しているほか、担当者が取引先を頻繁に訪問するなど積極的である。
- 中小零細企業にとって最後のよりどころであり、借入実績のある案件はもちろん、新規についても積極的に検討、または、応じてくれる。
- 新規融資等に前向きで、民間金融機関に断られた案件も積極的に対応してくれている。また、第三者保証を取らないなど、融資条件も比較的穏やかで、審査手続きもスピーディーであり、非常に助かっている。
- 新規開業資金等は民間と比べ、はるかに積極的に対応してくれる。また、第三者保証人不要等の借りやすい商品を推進するなど、事業者にも評判がよい。

(5)「消極的である」、「やや消極的である」を選択した主な理由とその背景及び具体例(業態別)

※ 経営指導員等から得られた回答数 205 (複数選択可) の結果。



- 消極的評価の理由としては、各業態とも「新規融資関連」、「担保・保証関連」、「融資条件関連」が多く、業態全体では「新規融資関連」は 25.4%、「担保・保証関連」は 24.4%、「融資条件関連」は 22.4%となっている。

消極的評価に対する主な背景・具体例については次のとおり。

【主要行】

- 以前と比較して積極性に欠け、融資条件が厳しくなった感じがする。
- 地域に支店があるにもかかわらず、融資の取扱いは他の支店が行っており、地域密着の姿勢が感じられない。
- 全体的に中小企業向け貸出が減少傾向にあると思われるが、中小企業の中でも少数派の優良企業以外には条件が厳しくなっているのではないかと。商工会議所会員向け特別融資制度の利用もなく、中には辞退する銀行もある。
- 提携融資等の商品について、当商工会議所においては、金融機関が取り扱っている融資商品の一覧を作っているが、主要行はそういった類の商品が廃止されてきている。
- 経営状態の良い企業に対しては、積極的に融資を行おうとするが、そうでない企業に対しては担保等がないと融資が消極的になる。

【地方銀行・第二地方銀行】

- 経営内容に対する目利きの姿勢がみえなく、担保・保証依存、数字依存の融資姿勢にある。市場性等を考慮した融資への取組みに期待したい。
- 保証協会付の制度融資には積極さも感じるが、プロパー融資は消極的。
- 担当者の訪問がないなど、信用金庫ほど積極的な姿勢は見られない。
- 地方においては、中小企業の事業活動が低迷していることもあって、担保・保証に依存している融資形態がみられる。
- 一時期に比べると、新規の設備資金が少なくなっているようである。金利も業績によって差をつけすぎているような気がする。

【信用金庫・信用組合】

- 都市部の信金は消極的な印象を受ける。
- 信用金庫は、責任共有制度実施以降、債務者区分が正常先以外は貸付に慎重。
- 保証協会の制度融資は積極的であるが、信用コストの増加を懸念してか、プロパー融資に関してはやや消極的なスタンスが続いている。

【政府系金融機関】

- 支店が少ないため、商工会の「一日広報」のようなところでの接点しかなく、個別企業への訪問などはない。もう少し積極的でも良いのではないか。
- 事業所の実態把握資料の提出が多すぎる。
- 新規融資がシビアになったり、求められる審査書類が多くなったりなど、以前より厳しくなった。

設問2 その他、中小企業金融に関する最近の実情等についての主な意見

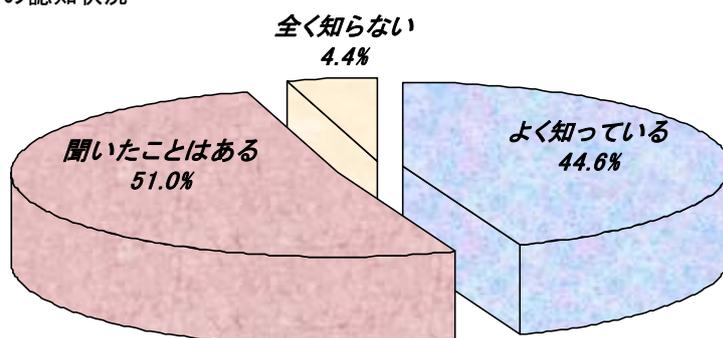
- 政府系金融機関の整理統合が進められているが、今後も中小企業に対する融資姿勢等、今の考え方を守ってほしい。
- 責任共有制度により、審査・融資実行に慎重となっている動きも見られる。
- 責任共有制度の行方を心配したが、現状においては、特に危惧した影響は感じられない。
- 建設業関連が非常に低迷している。金融機関も対応に苦慮していると思われるが、積極的な金融支援を希望する。
- 金融機関は担保を十分に取っていても、代表者の個人保証を求めている。企業の業況に問題がなければ個人保証までは求めないといった融資姿勢に変えていくことが必要ではないか。
- 企業選別の二極化は進んでいるようだが、貸し渋り、貸し剥しといった声は聞かれない。
- 合併及び経営の効率化等により、顧客とのコミュニケーションの場が失われつつある。
- これまである程度、設備資金の需要も出ていたが、最近では資金繰りの決済資金がほとんどであり、中小零細企業の資金繰りは厳しくなっていると感じる。しかし、民間金融機関は保証協会付融資でないと対応してもらえない場合が多く、もう少しリスクを取って、企業を育てるという姿勢を示して欲しい。

設問3 金融検査では、金融機関の中小・零細企業向け貸出金の安全性の評価にあたって、中小・零細企業の特性を踏まえ、その財務状況のみならず、企業と代表者との一体性、企業の技術力や販売力、代表者の資質、経営改善に向けた取組み等に注目し、企業の経営実態を踏まえて柔軟に判断することとなっている。(金融検査マニュアル別冊「中小企業融資編」)

(1) 上記内容についての認知状況

※ 経営指導員等からの回答数 447 の結果

マニュアル別冊の認知状況



(2) 上記内容の一層の普及について、寄せられた主な意見

- 各地で当該マニュアルについての説明会が開催され、企業からも一定の評価を得ている様なので、各金融機関単位で事業者向け説明会を開催すると良い。
- 中小企業の中でも特に規模の小さい小規模事業者は、企業と代表者との一体性が強く、また、数字だけでは判断できない面も多く、このような点から、こうした取組みは適切であると思う。
- 取組みの方向性は大変良いと思う。金融機関と経営者が良好な関係を築くためには、双方の信頼関係の構築が重要で、そのためには、金融機関は企業の実態や経営者の理念、資質を十分把握すること、他方、経営者も金融機関の考え方を十分理解しておく必要があり、こうした当局の取組みが役に立つと考えられる。
また、経営者がこうした内容を知ることにより、金融機関との借入れ交渉もスムーズになるのではないかと思料される。
- 小規模企業の大半はマニュアルの存在等は知らないと思われる。こうした層では、日々の資金繰りに追われ、経営改善の余地の乏しい企業が多く存在しており、普及を続けたとしても、効果は一部の企業に限られるのではないか。
- 金融機関に対して、企業経営者の借入れの相談時にリーフレットを説明するように要請することにより、企業経営者だけでなく、金融機関の担当者も理解が深まると思われる。
- 貸し手側は熟知されていると思うが、借り手側では理解度に大きな格差がある。普及に関しては、地域経済団体と金融機関が連携しつつ、借り手に対して継続的な啓発を行っていくことも選択肢の一つだと思う。